

## 助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 様

報告日付:2011年3月30日

事業ID:2009761463

事業名:カヌーの普及・振興

団体名:公益社団法人日本カヌー連盟

代表者名:会長 福田 康夫

TEL : 03-3481-2400

FAX : 03-3481-2401

事業完了日:2011年3月28日

事業費総額 4,813,264 円

自己負担額 463,264 円

助成金額 4,350,000 円

### 事業内容:

#### 1. 「カヌーの普及・振興」事業(カヌー体験研修会の実施:全4会場)

第1回開催時期:2010年7月25日(日)岡山県岡山市瀬戸町会場

(参加総数102名 内障害者0名)

第2回開催時期:2010年8月21日(土)長崎県諫早市多良見町喜々津漁港

(参加総数170名 内障害者17名)

第3回開催時期:2010年8月29日(日)山口県萩市川上阿武川温泉

(参加総数103名 内障害者8名)

第4回開催時期:2010年9月5日(日)新潟県三条市下田地区大谷ダム

(参加総78名 内障害者10名)

カヌー体験を通し、水に親しみ、自然の素晴らしさや楽しさを感じ、水に対する安全教育を行った。

また生涯スポーツの一環として、障害者を含めた年少児から高齢者にいたる幅広い範囲の人の理解を深め、支援する役員の資質向上、日本財団及びカヌースポーツの普及・振興をマスメディアによって伝えた。

### 事業目標の達成状況:

## 1. 運営委員会及び実行委員会の開催

- (1) 平成 22 年度カヌー体験研修会を実施するにあたり、運営委員会を平成 22 年 5 月 22 日(土) 18:00~20:00 岸記念体育会館 103 号会議室において開催した。

加藤委員長、原副委員長、長崎県熊和之、岡山県担当者江見健二、山口県担当者綿原輝則、新潟県担当者近藤雅晴、事務局岩上の計 7 名で会議を実施し、事業概要の説明、経費の内訳、物件、開催要項等の内容について説明を行なった。

補助具については開催地ごとの必要としているパドルや参加予定状況に合わせたパドル(子供向けのパドルを含む)を準備することになった。

- (2) 研修会開催地に於いて実行委員会を開催した。

継続して開催される長崎会場・岡山会場は昨年までの反省をふまえ準備・運営・参加者へのアプローチのための十分な検討を行った。新たに開催される山口県・新潟県は開催するにあたっての準備・運営について検討を行い、研修会に備えることとなった。特に障がい者への参加募集について力を入れることが話し合われた。

- (3) 平成 22 年度カヌー体験研修会終了に伴い、例年 3 月に開催している運営委員会反省会を開催する予定であったが、3 月 11 日の東日本大震災の影響で加藤委員長が山形県から来られないなど、深刻な事態を鑑みて開催を見合わせる事となった。

## 2. 研修会の開催

- (1) 岡山県会場(7月25日(日)開催)の参加者は102名であった。(内障害者0名)参加者のほとんど(48人中31人)がカヌーの経験のない方ばかりであり、同伴者も含めて家族での参加が多かったため、カヌーの裾野を広げることが出来た。

日本財団からの助成金があったおかげで、県下から様々なカヌーを集めることが出来、参加者には一度にたくさんの経験をしてもらうことが出来た。また、今回の事業の実施に当たっては、教育委員会の協力を得て学校でのチラシ配付を行った他、瀬戸町地域のケーブルテレビ、岡山市全域のケーブルテレビ、岡山県下全域をカバーする新聞等、幅広いメディアの協力を得て広報活動を行ったことで、県南の各地域から多くの方に参加してもらうことが出来た。との報告がなされた。

- (2) 長崎会場(8月21日(土)開催)の参加者は170名であった。(内障害者17名)今回2回目

の開催で、昨年よりも全体的にスムーズな運営ができた。事前に親子・年齢等で班分けをしていた為、行き届いた指導ができ、障害者への対応も十分に行うことができた。最後に修了証を参加者 1 人ひとりに手渡しすることができよかった。との報告がなされた。

(3) 山口会場（8 月 29 日(日)開催）の参加者は 103 名であった。(内障害者 8 名)本年度初めて開催することとなったが、事前に岡山会場の視察が大いに参考になりスムーズな運営で開催できた。障がい者の参加者には十分な指導者を付けることにより安心してカヌーを楽しんでもらえた。障がい者団体からも次年度以降本事業を企画して欲しいとの要望もあった。との報告がなされた。

(4) 新潟会場(9 月 5 日(日)開催)の参加者は 78 名であった。(内障害者 10 名)本年度初めての開催であった為、参加者への周知方法などで手間取った。特に障がい者への周知を社会福祉協議会へ依頼したが十分な周知には至らなかった点が反省点である。ただ、参加いただいた方からは、元々このような体験研修会等の場が少なく、次年度開催するのであれば是非参加したいとの希望があった為、次年度開催する際には周知方法を再度考慮したい。との報告がなされた。

### 3. 補助具の利用

今年度もパドルは事前にどのようなサイズが必要か開催都道府県の運営委員の要望を取り入れ、全会場、子供向けのパドルとなった。グローブについては販売業者が少なく、種類・在庫共に少なかった為、特定業者からの購入となったが、握力のない障害者用として使用した。

参加者への日本財団ロゴ入り帽子・T シャツの配布を行ない、熱中症対策を行なった。

### 4. 広報活動

各開催地に「カヌー体験研修会」のポスターを配布し、範囲に参加者を募集し、広告・新聞・連盟及び協会のホームページなどのメディアを通じて呼びかけ告知した。

ポスター、冊子「親と子のカヌーの手引き」、研修会場において看板・横断幕、プログラムに「日本財団の助成事業」と掲載し、広く一般の方々にもアピールするよう各開催地周辺に幅広く掲示を行った。

また日本財団のシンボルマークを帽子・補助具(パドル)・拡声器等に貼付した。

各開催地の新聞、テレビ等の取材があり広範囲に亘って報道され、カヌースポーツの普及・振興に大きな成果を上げた。

## 5. 成果

本年度は新規開催地の2県が加わり、新たな場所でのカヌーの普及が行えたことはとても有意義なこととなった。

本事業は今年で10年目の実施であるが徐々に全国に日本財団の助成事業として広がりを見せ、また日本カヌー連盟登録会員数増加の一助となっている。全国のカヌー競技大会においてもこの事業で配布しているTシャツ・帽子を着用している人が増えてきている。

また、障害者の参加者は、普段見せない生き生きとした顔に引率者や介護者が驚かれるという嬉しい報告もあった。

この体験研修会を通じて、安全で魅力あるウォータースポーツであり、生涯スポーツの一環として身体障害者を含め、年少者から高齢者に至る幅広い範囲の理解を深め、カヌースポーツの普及・振興・社会奉仕について考えるなどに大きな成果を上げると考えられる。そのような意味でもこのカヌー体験研修会を継続実施していきたい。

### 事業成果物:

1. ポスター 200枚5色刷り

(各会場地に配布し、研修会開催の案内を周知徹底させた。)

2. 指導書 「親と子のカヌーの手引き」400部A5判規格 32ページ

研修会時の指導書としてし、カヌーの基本技術、練習のしかた、水の安全教育等に努めるため配布を行った。

3. カヌー体験研修会開催プログラム(各開催地分)

研修会時に参加者に配布した。

4. 研修会実施報告書・写真 別添

### 収支決算書:(別紙)